

# 第4期 相模原市中央区区民会議 活動報告

～ 区ビジョンの区民の取組に対する検証結果 ～



平成30年7月  
相模原市中央区区民会議

---

---

## 報告にあたって

---

---

4年前、つまり、この任を頂くまでの私は、自身が生活する地域（生活拠点と仕事拠点の各地域）に対し漠然とした繋がりしか持っていませんでした。が、この任を頂いた頃から、私自身のライフワークの一つに、“プロの市民を目指す”という視点が加わりました。

そのきっかけとは、年若い優秀な同僚が、たまたま自身のお母様について話してくれた際、「我が母親は、娘の私から見てもなかなか真似のできない女性である。何かの専門家ではないけれど、“プロの市民”なんです！」と語ってくれたことでした。私は、この言葉に新鮮さを覚えワクワク感を抱きました。神奈川県K市在住とのことでしたが、K市が大きく変貌する昭和の中期以降、地域の課題を考えるべく一市民として、諸団体に積極的に柔軟に関わり、結果として多くの仲間とともに自分達の住みやすい地域を作る活動を大いに楽しまれたとのことでした。もう一人、友人のお母様にも、東京都東部地域に住みながら地域の広範囲の水問題に関わり、大いに活動をした方がいらっしゃいます。共通する視点とは、お二人が才能に恵まれた有能な方であることを前提に、恐らく、比較的時間が自由に使える主婦層が存在した時代に、自分の住む地域課題に関心を持ち、自身の手で住みやすい地域を創っていこうという気概に溢れた市民が多数存在したという、地域活動の一つの在り方を象徴していることであると思います。

私は、この女性達の活躍を想像しながら、地域の課題解決とは、地域の住民が核になり行政を動かし、それを行政がどのように吸い上げ、方向付けや調整等をし、再構成していくのか、いけるのか...にかかっていること確信しています。

時代は変わり、家族の形態も多様化し、多くの成人女性は何らかの仕事を持ち、男女ともに忙しく生活しています。“便利であり、且つ、孤独であること”は、なんと、世界共通の課題であるともいわれています。であるがゆえに、老若男女を問わず、どのような家族形態であれ、自分の住んでいる場所は住みやすくあってほしいものです。

長年、日本国への評価の一つとして、日本人はリスク管理があまり得意ではない（即ち、背景として必要性が低かった）といわれてきましたが、改めて、“環境は自分が関わって創っていくもの”という視点にたち、一人でも多くの市民の皆さんが、“今”の地域課題（リスク）に気付き、リスク管理をきっかけにワイワイ&ガヤガヤと街作りに関わり、「相模原市は住みやすい。私はそれを創り出した“プロの市民だから”」となっただけことを祈念いたします。

通算二期四年間、ありがとうございました。お支えを頂きました皆様に感謝申し上げます。

相模原市中央区区民会議 会長 井狩 芳子  
（和泉短期大学教授）

---

---

## 目 次

---

---

1	区民会議	1
2	これまでの取組	1
3	第4期中央区区民会議の取組	2
4	区ビジョンに掲げた「区民の取組」の検証のまとめ	2
	（1）まちづくりの目標1（安心・福祉分野）	3
	（2）まちづくりの目標2（教育・文化分野）	15
	（3）まちづくりの目標3（環境共生分野）	27
	（4）まちづくりの目標4（広域交流分野）	41
	（5）まちづくりの目標5（自立分権分野）	49
5	相模原市中央区区民会議 委員名簿	55
6	第4期区民会議開催状況	56
参考資料	第4期第2回区民会議 資料1	57
	中央区区ビジョン進行管理表【平成25年度～平成27年度】	

---

---

## 1 区民会議

---

---

区民会議は、政令指定都市移行による区制の施行にあわせて設置された附属機関で、市長からの諮問事項や区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う機関です。

### 附属機関

附属機関は、法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を反映させるため、審査や調査などを行う機関のこと。

---

---

## 2 これまでの取組

---

---

### 第1期（平成22年7月30日～平成24年7月29日）

区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」の策定について、相模原市長から諮問を受け、中央区の特色や現況、課題を踏まえ区民と行政が共に目指す将来像やまちづくりの目標を審議、答申を行いました。

### 区ビジョン

区ビジョンは、区民と協働でまちづくりを進めるための指針として、「新・相模原市総合計画」を地域の視点で捉え直し、区の課題、魅力、特徴を踏まえた上で区のめざす将来像を明らかにして、その実現に向けて区民と行政がともに進めるまちづくりの基本的な方向性を示すものとして、平成24年度に策定しました。

### 第2期（平成24年7月30日～平成26年7月29日）

第2期では、区ビジョンに定めた「地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出する」という基本方針に焦点を当て、中央区らしい魅力として、区内の地域資源を再発見するとともに、それらを「つなぐ」取組みについて議論し、中央区らしい魅力を創造する提案をとりまとめました。

## 第3期（平成26年7月30日～平成28年7月29日）

第3期では、より幅広く区民と意見交換を行う「中央区拡大区民会議」を開催し、「区民や地域の連携・協力による魅力あるまちづくりに向けて」、「若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について」をテーマに、区内の高校生・大学生・子育て世代の区民が参加し、区民が主体となり地域資源を「つなぐ」ために必要な方策や若い世代の地域参加について議論し報告書としてまとめました。

## 3 第4期中央区区民会議の取組

第4期区民会議では、平成32年度から計画期間が始まる新たな区の計画の策定に向け、区ビジョンに掲載する行政の取組の実施状況の確認と区民の取組についての検証を行いました。



---

---

## 4 区ビジョンに掲げた「区民の取組」の検証のまとめ

---

---

### (1) まちづくりの目標 1 (安心・福祉分野)

「ともに支えあい、笑顔と思いやりがあふれる中央区」

基本方針 1 地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます

基本方針 2 地域の安全・安心対策に取り組めます

#### ア 進捗状況

- ・ 地域で福祉事業を行う施設や事業者と地区社協、自治会、民生委員などが定期的に意見交換会を行うなど、連携による支えあい・助けあいの福祉コミュニティづくりが進められている。
- ・ 住民が主体的にバリアフリーの視点で公共施設・公共交通についての点検を行い、行政へ改善要望等が行われている。また、地域で管理する集会場等の施設についても、バリアフリー化の取組が始められている。
- ・ 子育てサロンや子ども食堂など、子どもたちの居場所づくりや見守り活動が活発に行われており、住民主体による子育て、子育てを支える環境づくりが進んでいる。
- ・ 三世代交流事業や子どもたちが主体となって事業を開催する取組など、各地域で工夫を凝らしながら青少年の健全育成への取組が進められている。各地区で自治会や青少年健全育成協議会が中心となりパトロール活動が行われている。
- ・ 高齢者が趣味や特技を生かし、ボランティア活動を行うなど、高齢者の社会貢献活動が進んでいる。
- ・ 多くの地域イベントで障害体験を設けているほか、障害者施設にイベントへの参加を呼びかけるなど、区民の障害者に対する理解を深める取組がなされているものの、一部に留まっている。
- ・ 新たに「ラジオ体操」、「いきいき100歳体操」などの活動が始まるなど、健康づくりの取組は着実に進んでいる。また、かかりつけ医を持つことの必要性への意識は高まっている。
- ・ 自治会と警察署、相互で防犯に係る情報共有の体制がとられ、その情報を地域住民へ周知する体制が整えられ、防犯に関する情報収集や啓発活動など、犯罪のないまちづくりへの取組が進んでいる。
- ・ 地域内の団体が連携した交通安全教室の開催や、街頭での啓発活動が活発に行われている。また、交通事故発生地マップの作成などにより、危険箇所や交通事故に関する情報の共有も進んでいる。
- ・ 自主防災組織により、各地域の特性を活かした防災活動や災害時要援護者の支援を目的とした名簿作成などが行われ、災害に強いまちづくりへの取組が進んでいる。

#### イ 今後の課題

- ・ 地域福祉が一部の限られた人によって支えられていることや、ボランティアの高齢化が進んでおり、担い手の育成やボランティアの仕組みづくりが急務である。
- ・ 地域で管理する施設のバリアフリー化については、敷地などに課題の多い施設もあり、継続的に取り組む必要がある。
- ・ 子どもの居場所づくりについては、子どもが学校で自由に遊べる環境を整えていくことなど、今後も引き続き取り組むべき課題である。また、子ども食堂などの取組について、その必要性や趣旨などの理解を深めていく必要がある。
- ・ 交通安全の取組みが進んでいるものの、自転車利用者の安全意識の向上や高齢者の交通事故を防ぐために引き続き取り組む必要がある。
- ・ 災害時要援護者への支援の必要性を理解してもらう働きかけを更に進める必要がある。
- ・ 障害や障害者に対する理解を広く区民に浸透させる取組を更に進める必要がある。



## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

基本方針1 地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>支えあいのまちづくり</p>	<p>地域の支えあいや助けあいの活動に積極的に参加し、地域のさまざまな課題などの発見、共有、解決に向け、地域住民相互の連携に努めます。 地域の福祉活動を主体的に行っている地区社会福祉協議会、自治会、地区民生委員児童委員協議会、ボランティア、福祉団体、NPO等が連携し、福祉コミュニティづくりを進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>高齢者、障害者等への支援や、そのための意見交換会が定期的開催されるなど、概ね全地区で取組がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご近所みまもりシート」などの配布。(清新地区)</li> <li>・住民の困りごとのサポートを自治会、ボランティアが実施</li> <li>・団体(施設、事業者等)同士の連携のため、意見交換会を開催</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての地区で、地域ケア会議の地域づくり部会が設置され、地域福祉について議論しているが、地域づくり部会は実行部隊としての意味合いが強く、より多くの団体が連携し、福祉コミュニティづくりを推進する必要がある。</li> <li>・活動の周知徹底には自治会に未加入で地域との交流がない人への周知方法を検討する必要がある。</li> <li>・地域福祉を支えるにあたっては、ボランティアの仕組みづくりが必要である。一部の限られた人が担い手となっており、担い手の育成が課題である。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>地域で福祉事業を行っている施設や事業者、民生委員、社会福祉協議会、自治会などとの意見交換会が定期的に行われるなど、地域間の連携による福祉コミュニティづくりの取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

### 基本方針1 地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>バリアフリーによる福祉のまちづくり</p>	<p>公共施設・公共交通が快適に利用できるように、バリアフリーの視点から意見や提案に努めます。</p> <p>事業者は、自らが設置または管理する施設等について、利用者が安全かつ快適に利用できるよう配慮し、その整備等に努めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>地域住民が主体となり、バリアフリーの視点での街並み点検による意見収集の取組がなされていると共に、自治会集会所内のスロープや手すりの設置などの整備がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉協議会、自治会等の団体が連携して障害者の視点にたつて、街並み点検を実施し、市に改善要望を出している。(光が丘地区)</li> <li>・自治会集会所では、畳からフローリングへの改修や、スロープの設置、机の交換等に取り組んでいる。(星が丘地区)</li> <li>・地区社会福祉協議会の主催により、バリアフリーの視点での意見収集を目的とし、車いす体験を実施している。(各地区共通)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーを意識した街並み点検の機会を定期的に設けていく必要がある。</li> <li>・バリアフリーの推進だけでなく、バリアアリー(健康促進を目的として階段や傾斜などを配置)の視点を持った上で、バリアフリーの適正整備を行っていく必要がある。</li> <li>・集会所に積極的にスロープや手すりを設置し、バリアフリーを推進している地域もあるが、敷地や財政面で課題を抱えている地域もあり、引き続き整備等を進めていく必要がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>市が管理する施設について、地域住民が主体的にバリアフリーの視点での点検を行い、必要な意見や提案が行われている。また、集会場等の地域で管理する施設についても、改修が行われており、取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1(安心・福祉分野)

基本方針1 地域の福祉向上と心と身体健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>子ども・高齢者・障害者にやさしいまちづくり(子育て)</p>	<p>地域全体で子育て・子育てを支える環境づくりを進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>子どもが学校で自由に遊べる環境が整っていないなど、地域内に子どもの遊び場が少なくなっている中、公民館や自治会館での子育てサロンの開催や子ども食堂など、地域住民が中心となった子どもの居場所づくりが進められている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの「貧食」、「孤食」対策として、温かい食事の提供、子どもたちのコミュニケーションの場づくりとして、みんなの食堂を実施している。(中央地区)</li> <li>・子ども食堂を月1回、子どもキッチンを月1回開催している。(上溝地区)</li> <li>・子どもの居場所づくりとして、無料の学習塾が展開されている。(大野北地区)</li> <li>・自治会館で保育士による相談ブースを設けた子育てサロンの実施や、図書室の設置を行っている。(中央地区、大野北地区、上溝地区)</li> <li>・自治会館に図書室を設置し、曜日限定で開放している。(中央地区)</li> <li>・地域住民による子どもたちの見守り活動が行われている。(各地区共通)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週末に学校が自由に使えなくなり、子どもの遊び場が減った。</li> <li>・子どもが安心して自由に過ごせる場所が少なくなっている。</li> <li>・上溝さくら公園には、地域の児童や園児などが集団で訪れているなど、子どもたちの交流の場となっている。</li> <li>・子どもたちと地域の商店街との交流のイベントの実施が有効ではないか。</li> <li>・本来、子ども食堂を利用してもらいたい対象者に利用されていない実態がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>各地区において、子育てサロンや子どもたちの見守り活動が活発に行われ、地域住民が主体となって子育て、子育てを支える環境づくりが進んでいるが、子どもが学校で自由に遊べる環境が整っていないなど、週末の子どもの居場所づくりについては、引き続き取組が必要である。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

### 基本方針1 地域の福祉向上と心と身体健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>子ども・高齢者・障害者にやさしいまちづくり（青少年）</p>	<p>青少年を対象にした地域における事業、行事の実施やパトロールなどにより、地域全体で青少年の健全な成長を支援していきます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>幅広い世代が交流できるイベントの開催や、子どもたちの安全安心を確保するためのパトロール活動の実施などの取組がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三世代交流イベント（料理づくり、廃油石けんづくり、昔の遊び体験、紙芝居体験、絵手紙、音楽会）の開催（小山地区）</li> <li>・ 地区の青少年健全育成協議会が中心となつてのパトロール活動の実施</li> <li>・ 子どもたちが主体となりイベントの企画運営を実施（光が丘地区）</li> <li>・ 保育園による、中学生の職場体験の受け入れ（上溝地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地区のイベントにおいて、中高生を集める工夫が必要</li> <li>・ 福祉まつりなどでは、上溝高校や上溝南高校の生徒が手伝いにきてくれている。</li> <li>・ 一部の保育園では、中学生の職場体験（3日程度）を積極的に受け入れており、受け入れた生徒は、体験学習後もボランティアとしてきてくれている例もあるので、広く周知し、取組を広めていく必要がある。</li> <li>・ 特に高校生の自転車マナーが低く感じるが、高校生に注意してもなかなか成果がみられないため、小学生の時期からの指導が重要である。</li> <li>・ 教育コミュニティをもつことは大切なので、学校と地域の連携をもっと活発にしていくべきである。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>自治会や青少年健全育成協議会が中心となり、パトロール活動を実施するとともに、地域イベントを通して、青少年の健全育成への取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

基本方針1 地域の福祉向上と心と身体健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>子ども・高齢者・障害者にやさしいまちづくり(高齢者)</p>	<p>長年培った知識・技能・経験を生かし、地域におけるボランティア活動を通じ、地域社会に貢献します。高齢者の社会貢献活動の場をつくとともに、高齢者を温かく見守り、地域全体で支えます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>人材バンクや地域の保育園への童話の朗読ボランティアの出張など、一部の地域において、高齢者の社会貢献活動の場づくりへの取組がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の居場所づくりを目的として、囲碁・将棋、合唱や健康教室など行っている「くつろぎ亭」の開催(横山地区)</li> <li>・保育園への童話の朗読ボランティアの出張(上溝地区)</li> <li>・「ひまわり会」、「しぶがき」など、自身の趣味・特技を生かし、庭木の剪定、合唱、簡易な手伝い等をしている団体がある。(上溝地区)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動全体において、男性の参加率の向上が課題である。</li> <li>・ボランティアの担い手は高齢化しており、若い世代の参加が求められている。</li> <li>・相模原市で開催されているあじさい大学は、趣味の場で終わってしまっており、地域活動につながっていないため、受講生を地域活動へ取り込んでいく取組が必要である。</li> <li>・ボランティア活動を行うとポイントを付与するなどのメリットがあると良い。</li> <li>・高齢化社会が進む状況で、高齢者同士が助け合うことも必要。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>各地域において、高齢者が趣味を生かし、ボランティア活動を行い、社会貢献活動が進んでいる。また、世代間の交流を深めながら、地域全体で高齢者を支えていく取組も進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

### 基本方針1 地域の福祉向上と心と身体の健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>子ども・高齢者・障害者にやさしいまちづくり（障害者）</p>	<p>障害者やその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、障害や障害者に対する理解を深めるとともに、地域全体で支えます。 企業などの事業者は、障害者が生きがいを持って生活できるよう雇用に努めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>障害者に対する理解を深める目的として、地域行事等での交流、障害体験の機会などの場を地域で設けるなど、地域全体で支えていく取組がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事等へ障害者施設に参加してもらうなど、交流を介して、障害者に対する理解が深まる取組が行われている。（星が丘地区）</li> <li>・福祉まつりにおいて、障害者への理解を深める場として、盲目体験、点字体験を実施している。（上溝地区）</li> <li>・地域住民により、障害者の視点に立っての街並み点検を定期的実施している。（各地区共通）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者施設を借用した事業を実施することで、地域交流の場となっている。</li> <li>・障害者雇用の推進を目的として、敬老会の案内状の組み込みや保育園の掃除の一部を障害者施設に依頼している。</li> <li>・障害に対する理解を深めるための様々な取り組みはなされているものの、広く区民へ浸透されているとは言い難い。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>障害者施設に対して、地域行事等への参加の呼び掛けを行うなどにより、障害や障害者に対する理解を深める取組がなされているものの、一部に留まっており、引き続き取組が必要である。</p> <p>また、県内の民間事業所における障害者の実雇用率は、平成24年度から29年度にかけて、1.63%から1.92%（法定雇用率2%）へと改善しており、障害者の雇用促進の取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

基本方針1 地域の福祉向上と心と身体健康づくりに努めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>心と身体健康づくりと安心できる医療体制づくり</p>	<p>生活習慣病の予防に向け、一人ひとりが健康づくりに取り組むとともに、心の健康づくりに関する知識を学びます。 また、身近な地域で診療や健康相談ができるよう、かかりつけ医を持ちます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>各地区において、「ラジオ体操」など健康づくりの取組が実施されている。 かかりつけ医の推進については、その必要性について、個人の意識は高まっているが、地域全体での取組は行われていない。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康保持や生きがいづくり、安否確認などを目的としたラジオ体操の実施（各地区共通）</li> <li>・「ぶらっと上溝」では、健康保持を目的として、骨盤体操等を実施している。（上溝地区）</li> <li>・各地区で「ラジオ体操」や「いきいき100歳体操」が実施されている。（各地区共通）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での「ラジオ体操」などへの参加者が増加傾向にあることから、健康づくりに対する意識の高さがうかがえる。</li> <li>・子育てにおける親の孤立化、ストレス軽減（虐待防止）を推進していくためには、気軽に悩みなどを相談し合える場をつくっていく必要がある。</li> <li>・自分の身体は自分で守るという意識で、一人でも自宅で気軽にできる健康促進の取組を考えて、情報発信していくとよい。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>各地域における健康づくりの取組は、着実に進んでいる。 かかりつけ医を持つことについては、その必要性についての住民個々の意識は高まっている。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

### 基本方針2 地域の安全・安心対策に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>犯罪のないまちづくり</p>	<p>普段から防犯意識を高く持ち、防犯に関する情報収集に努め、自分でできる防犯対策に取り組みます。</p> <p>また、地域内で防犯に関する情報を共有し、企業などの事業者とも連携しながら、自主防犯組織によるパトロール活動を行うなど、地域の防犯活動に積極的に取り組みます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>自治会と警察署間、相互で防犯に係る情報共有の体制がとられている。また、自治会から地域住民への情報提供、地域住民による防犯チラシの配布といった啓発活動の取組が行われている。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小、中学校及び高齢者サロンへ自転車事故防止の啓発チラシ等の配布（星が丘地区）</li> <li>・ 公民館まつりにおいて「安全・安心」の啓発ブース出展</li> <li>・ 青色回転灯装備車両によるパトロールの実施（延べ283回実施）（田名地区）</li> <li>・ 自治会による、公園や自治会館周辺への防犯カメラの設置</li> <li>・ 地域住民への防犯に関する情報共有を徹底するために、自治連と警察署との情報共有の場を設けている。（各地区共通）</li> <li>・ 単位自治会が中心となり、近隣のスーパーの店舗前での防犯チラシの配布を実施</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のつながり自体が防犯対策になることを周知することなど、地域全体で犯罪を防ぐ意識を高めていく必要がある。</li> <li>・ 自転車の盗難が増加する要因の一つとして、鍵の未施錠が挙げられるため、鍵の施錠を徹底するよう周知していく必要がある。</li> <li>・ 自治会の回覧で、地域内の事件情報を周知しているが、他人事と捉える人が多いのが現状である。</li> <li>・ 「安全安心メール」が普及しない背景として、膨大な情報量をうまく集約できない人もいるので、地域限定の設定などの機能を周知する必要がある。</li> <li>・ 防犯カメラの効果的な活用について検討が必要</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>自治会等では、警察署から得た情報を地域住民へ周知する体制が整えられ、防犯に関する情報収集の取組は進んでいる。また、その情報をもとにした啓発活動などにより地域の防犯活動についても、取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標1(安心・福祉分野)

### 基本方針2 地域の安全・安心対策に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
交通事故のないまちづくり	<p>普段から交通ルールを遵守し、交通安全に努めます。</p> <p>特に区内での自転車事故が多いことから、自転車の安全運転、自転車マナーの向上に努めます。</p> <p>また、地域内の交通危険箇所や交通事故などに関する情報を共有し、地域の交通安全活動に積極的に取り組みます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>一部の地域では、地域イベント内において、自転車教室を開催するなどにより、ルールの遵守、マナー向上への取組がされている。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケアードストレート事業(スタントマンによる交通事故の再現)の実施(光が丘地区)</li> <li>・子ども会サマーフェスティバルや福祉まつりで、自転車安全教室を開催(上溝地区)</li> <li>・交通事故発生箇所を地図に落とし込み、自治会回覧等で周知している。(小山地区、星が丘地区)</li> <li>・事故多発地点を中心に地域内の団体が連携して啓発活動を行っている。(各地区共通)</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区自治会連合会が中心となり、社会福祉協議会、老人会とも連携して呼び掛けを行っているが、事故の減少につながっていない実感がない。</li> <li>・中高生の自転車事故が多いが、中学生以上になると、自転車マナーの遵守の呼び掛けを行ってもなかなか結果として反映されないため、小学生からの自転車マナー教育の強化が必要である。</li> <li>・日頃から地域内の交通危険箇所の情報収集を行い、行政や警察に報告していくことが重要である。</li> </ul>
検証結果	<p>地域内の様々な団体が連携して交通安全教室を開催するなど、自転車の安全運転とマナーの向上につながる取組は進んでいる。また、交通事故発生マップを作成するなどして危険箇所を共有するなど、地域の交通安全活動に積極的に取り組んでいる。</p>

## まちづくりの目標1 (安心・福祉分野)

### 基本方針2 地域の安全・安心対策に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>災害に強いまちづくり</p>	<p>普段から防災意識を高く持ち、防災に関する情報収集や防災用品の備蓄を進めるなど自分でできる防災対策に取り組みます。</p> <p>また、地域内で防災に関する情報を共有するとともに、企業などの事業者と連携しながら自主防災組織の強化を図り、地域の防災活動に取り組みます。</p> <p>さらに、行政との協働により、地域ぐるみで災害時要援護者をサポートしていきます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>地域ごとに、河川の増水対応を中心とした訓練、近隣大学や保育園などとの連携訓練など、地域特性を生かした防災活動の取組がなされている。</p> <p>また、災害時要援護者の支援体制については、一部の地域においては、自治会独自の名簿の作成に取り組んでいる。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災意識の向上と住民の迅速な安否確認を目的として、「黄色い小旗」による安否確認訓練を実施している。(田名地区)</li> <li>・一部の地域では、河川の増水対応を目的とした防災訓練を実施している。(大野北地区、小山地区、上溝地区)</li> <li>・地域によっては、地区自治会連合会、社会福祉協議会、高齢者支援センター、事業所や大学などと自治会の連携による防災訓練を定期的に行っている。</li> <li>・保育園や幼稚園では、災害乳幼児ステーションとして、地域と連携した炊き出し訓練や親子参加型の防災訓練を実施している。(上溝地区)</li> <li>・自治会独自に、市のガイドラインに沿って、要援護者台帳の作成、管理、定期的な訪問などに取り組んでいる。(各地区共通)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に対する認識はあるが、各家庭での備蓄は進んでいないと感じる。</li> <li>・自治会で備蓄を行っているが、防災倉庫に格納できる数量も限りがあるので、個人での備蓄の呼び掛けの徹底が必要である。</li> <li>・地域の防災力向上として若者を取り込むためにも、地域の大学と連携した防災訓練を強化していく必要がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>防災に関する情報の共有については図られているが、各家庭において自分でできる防災対策への取組が十分に進んでいるとは言えない。</p> <p>自主防災組織においては、地域全体の防災力を強化する取組が進んでいる。</p> <p>また、一部の地域においては、自治会独自の名簿を作成するなど、災害時要援護者をサポートする取組が始まっている。</p>

## (2) まちづくりの目標2(教育・文化分野)

「認め合い、高めあい、学びあう活力ある中央区」

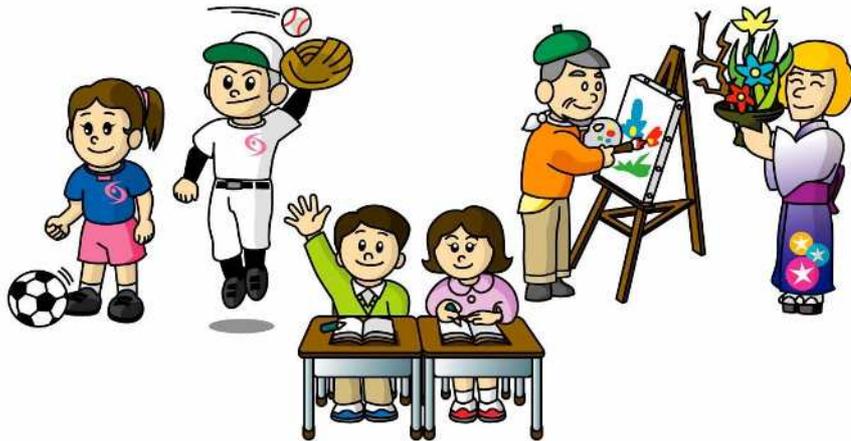
- 基本方針3 自ら学び、心豊かに成長できる環境を整備します
- 基本方針4 生涯スポーツの充実とスポーツ振興によるまちづくりを進めます
- 基本方針5 文化の振興に取り組みます
- 基本方針6 人権尊重・男女共同参画を推進します

### ア 進捗状況

- ・ 子どもの見守り活動や教育ボランティアによる学校教育への支援活動、子どもの企画によるイベントの開催など、地域で子どもを見守り育てる活動に全地区で取り組んでおり、取組は着実に進んでいる。
- ・ 高齢者は、各地域でサークルをつくり、公民館などを拠点として活動するとともに、公民館まつりや高齢者施設などで活動の成果を地域に還元している。一方で若い世代は個々での趣味活動が主となっており、地域への還元は進んでいない。
- ・ 各世代で様々なスポーツチームを作りスポーツに親しんでいるとともに、地域の子どもスポーツチームでは、親が指導や練習に取り組むなど、世代を越えた交流が行われている。また、地区の運動会などの運営に地域の人たちがボランティアで参加しており、生涯スポーツの充実に向けて取組は進んでいる。
- ・ 区にゆかりのあるトップアスリートの壮行会の開催や、試合のポスターを掲示するなどホームタウンチームの応援に取り組んでいる。また、ホームタウンチームの地域イベントへの参加や学校訪問なども行われ、地域交流も進んでいる。
- ・ 公民館などで区民がサークル活動や音楽、手芸などの事業に参加している。また、地域では史跡、文化財などに親しめるような案内マップの作成や祭りなどの伝統行事が継承されており、文化振興への取組は進んでいる。
- ・ 大学や高校、公民館や市民ギャラリーなどで、音楽や美術、芸能などの事業や市民講座などが開催され、区民が鑑賞し、芸術などに親しんでおり、芸術活動によるまちづくりの取組は進んでいる。
- ・ 外国の文化を知る講座、交流するきっかけとなるイベントが開催され、区民が参加し国際理解を深めている。一方でこうした活動は地区が限定していることや外国人との交流が進んでいない状況から、国際交流によるまちづくりの取組は進んでいるとは言えない。
- ・ 男女共同参画や人権などについて、全体としては若い世代を中心に理解は進んでおり、お互いを尊重し合うための意識は高まってきている。
- ・ 特定非営利活動法人(NPO法人)による、セミナーなどを通じ男女共同参画についての意識啓発の取組が進められ、また、若い世代は性別による考え方の垣根が取り払われてきているが、地域団体の役員の男女比などを踏まえると、男女共同参画によるまちづくりが十分に進んでいるとは言えない。  
また、DVについて区民一人ひとりが取り組むことは難しいが、学校、市役所での被害者保護やDVに関する啓発は進んでいる。

## イ 今後の課題

- ・ 子どもの見守り活動などに、保護者が積極的に参加する環境づくりについて、検討する必要がある。
- ・ 若い世代を地域に取り込む仕組みができていないため、地域に入るきっかけづくりや地域参加を促し、地域で活動できるような仕組みづくりが急務である。
- ・ どのようにして国際交流を深めていくかの検討や日本のルールを伝えたり、伝えられる人材を養成する取組の検討が必要である。
- ・ 男女共同参画について、地域で具体的にどのように取り組んでいくべきなのかを明らかにするなど、引き続き取組が必要である。



## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針3 自ら学び、心豊かに成長できる環境を整備します

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>区民がかかわる教育環境づくり</p>	<p>学校教育への支援活動や子どもの安全見守り活動、各種体験活動など、地域で子どもを見守り、育てる活動を進めます。また、自らの知識や経験を生かして学校教育活動に積極的に協力します。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>子どもの見守り活動を始め、教育ボランティアによる学校教育への支援活動や子どもの企画によるイベントを開催など、地域で子どもを見守り育てる活動に全地区で取り組んでいる。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの安全見守り活動は区内の様々な団体、区内の小・中学校全校で行われている。</li> <li>・婦人会による新入学児に対しての給食の準備の補助（陽光台他）</li> <li>・横山地区と清新地区社会福祉協議会により、清新中学校（1年生）で福祉体験授業を実施（横山地区、清新地区）</li> <li>・SST（教育ボランティア）で、小学校で新1年生の補助</li> <li>・地域のボランティアが中学生のクラブ活動で指導</li> <li>・子育て中の親が、子育てを豊かにできるような知識を学ぶ、家庭教育学級の開催（区内各中学校）</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域では、様々な人たちにより見守り活動や体験活動などの取組が十分なされているが、保護者（子育て世代）が積極的に参加することが必要</li> <li>・地域の様々な人たちが子供の見守りなど、育成する活動を行うことが当たり前のことと、保護者が思っている。</li> <li>・自治会や子ども会に入っていないと集団登校できない地域もあり、その対応を地域で検討する必要がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>区内全体で多くの人や団体が、子供の見守り活動などに参画するなど、地域で子供を見守り、育てる活動が広がっている。また、クラブ活動なども含めボランティアが学校教育活動に協力していることから、取組は着実に進んでいる。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針3 自ら学び、心豊かに成長できる環境を整備します

重点的な取組	区 民 の 取 組
生涯学習によるまちづくり	<p>学習を通じて自分自身の生きがいづくりを進めるとともに、地域コミュニティの活性化や学習成果の地域への還元を図ります。</p>
各地区の事例及び意見	<p>各地域で公民館等でのサークル活動や公民館まつりなどでの発表が行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は、各地域でサークルをつくり、公民館や様々な施設を利用して生きがいづくりをしている。(全地区)</li> <li>・公民館でのサークル活動を行っている団体が、公民館まつり、老人施設、学校や敬老のつどいなどで発表している。(全地区)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が積極的に地域での生きがいを見つけしていく取組が不足している。</li> <li>・若い世代の公民館での活動場所が無い。公民館の中で活動していくようになれば、担い手としてつながっていく。</li> <li>・若い世代に「生きがい」という言葉が馴染まない。「生きがい」という言葉を再考する必要がある。</li> <li>・若い世代が生きがいを見つけ、将来、地域の中で取り組む仕組みができていない、地域に入るきっかけがない。また、仕事・子育てなど今の生活を続けることで、そこに目を向ける余裕がない。</li> <li>・区民の取組を若い世代、高齢者に分けたほうが良い。</li> <li>・若い世代に関しては、個々での活動はしているものの、地域コミュニティの中での活動がされていないため、今後、地域での参加を促すための取組を進める必要がある。</li> </ul>
検証結果	<p>高齢者はサークルを作り、公民館などの施設を核として、生きがいづくりやコミュニティの活性化・地域還元が進んでいるが、一方で、若い世代は個々での趣味活動が主となっており、取組が進んでいるとは言えない。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針4 生涯スポーツの充実とスポーツの振興によるまちづくりを進めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
生涯スポーツの充実	<p>地域において主体的にスポーツ・レクリエーションに親しみ、世代や職業等を越えた交流を図ります。</p> <p>また、スポーツ・レクリエーションの大会、イベントなどにおけるボランティア活動に参加します。</p>
各地区の事例及び意見	<p>幅広い年齢層の区民が、様々なスポーツやレクリエーションを行っているほか、地域では運動会が開催され、運営に地域の人たちがボランティアで参加している。また、子どものスポーツチームでは親が指導や練習を行うなど、世代間や職業等を越えた交流が行われている。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいき百歳体操が行われている。(横山)</li> <li>・他地域の子もたちも参加する中で、公民館でファミリーバドミントンが行われている。(星が丘)</li> <li>・パークゴルフを行っている。</li> <li>・高齢者を対象とした交通安全ゲートボールを開催している(大野北)</li> <li>・若い世代も野球やフットサルのチームを作りスポーツに親しんでいる。</li> <li>・各地域での運動会では、その運営に地域の人たちがボランティアで参加している。</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での活動を更に進めるため、中央区杯のような大会の開催も有意義ではないか。</li> <li>・グラウンドゴルフは、子どもから高齢者まで楽しめるスポーツなので、世代間を越えた交流ができる。</li> </ul>
検証結果	<p>野球やサッカー、パークゴルフやゲートボールなど、各世代で様々なスポーツチームを作りスポーツに親しんでいるほか、地区の運動会では運営に地域の人たちがボランティアとして参加し、地域の子どもの野球やサッカーチームでは、親が指導や練習に取り組むなど、世代を越えた交流が行われており、取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針4 生涯スポーツの充実とスポーツの振興によるまちづくりを進めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>スポーツ振興によるまちづくり</p>	<p>区にゆかりのあるトップアスリートやホームタウンチームを応援します。ホームタウンチームによる学校や福祉施設、商店街などにおける地域に密着したさまざまな交流活動を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>オリンピック出場や箱根駅伝優勝の折には、壮行会や優勝祝賀パレードをゆかりのある地域で開催している。</p> <p>また、ホームタウンチームは、小学校や地域のイベントなどへ参加している。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームタウンチームの試合のポスターを貼る場など、商店街として応援している。</li> <li>・オリンピック出場選手の壮行会や青山学院大学陸上競技部の箱根駅伝優勝祝賀パレードを地域で開催している。</li> <li>・三菱重工相模原ダイナボアーズは、小学校であいさつ活動を行っている。</li> <li>・ノジマ相模原ライズは、こどもワールド in 光が丘への参加や淵野辺駅周辺で清掃活動を実施している。</li> <li>・SC相模原は区内小学校の夢授業に訪問している。(共和小学校ほか)</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップアスリートやホームタウンチームをより応援するため、積極的に地域の人たちに、試合結果を周知するなど、より見える形で情報を発信する必要がある。</li> <li>・ホームタウンチームが、より地域に密着した交流活動ができるよう、更に地域から声をかけていく必要がある。</li> <li>・ホームタウンチームを知らない区民が多い。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>地域での壮行会の開催や、ホームタウンチームの試合のポスターを掲示する場所の提供など、区にゆかりのあるアスリートやホームタウンチームの応援をしている。</p> <p>また、ホームタウンチームは小学校の訪問や清掃活動を行う一方、地域ではホームタウンチームにイベントへの参加を呼びかけ、ホームタウンチームとの交流が進められているが、より交流する地域を広げるためには、更に地域からの働きかけの必要がある。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針5 文化の振興に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>文化振興によるまちづくり</p>	<p>公民館におけるサークル活動や公民館主催事業に参加するとともに、市民会館、相模原市民ギャラリーなどで行われる優れた文化・芸術を鑑賞します。 また、区民の財産である文化財に親しみ、地域の伝統文化や行事などの保存や継承に取り組みます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>公民館でのサークル活動や主催事業に多くの区民が参加し、市民ギャラリーでの企画展などで芸術鑑賞をしている。また、文化財に親しむための地域での案内マップ作りのほか、伝統芸能の保存・継承に取り組んでいる。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館でのサークル活動や公民館主催事業に多くの人が参加している。</li> <li>・ 障害者の詩を展示した「ハート展」を開催した。</li> <li>・ ペインティングパフォーマンスを開催（中央商店街）</li> <li>・ 地区内の4小学校で小学生の作品展を、中学校区に分け、2校ずつが共同で作品を展示している（大野北）</li> <li>・ 弥栄高校美術部の作品を公民館に展示し紹介（光が丘）</li> <li>・ 市民ギャラリーの企画展や展覧会を区民が鑑賞している。</li> <li>・ 田名地区の史跡を6つのコースにして地域をめぐるマップの作成（田名）</li> <li>・ 地区の史跡を紹介した、史跡めぐりマップの作成（大野北）</li> <li>・ 的祭、獅子舞が行われ伝統芸能の継承の取組がなされている（田名）</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 照手姫の伝説にまつわる場所に案内板を設置するなどして、人々が目に見えるような形でPRできると良い。</li> <li>・ 田名八幡宮の的祭は文化財なので、区民も更に発信していく必要がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>公民館では、多くの区民が音楽や手芸、体育、料理などのサークル活動に参加している。また、地域では史跡、文化財に親しめるよう案内マップの作成や祭などの伝統行事が継承されていることから、取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針5 文化の振興に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>芸術活動によるまちづくり</p>	<p>近隣の大学や学生が主催する区民参加型のプログラムや相模原市民ギャラリーにおける美術ワークショップなどに参加します。 また、公民館や青少年学習センターにおける事業や音楽・絵画などの芸術活動に参加します。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>大学や高校、市民ギャラリーや公民館、青少年学習センターなどで開催されている様々な芸術に関する事業に区民が参加している。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜美林大学開催の市民講座に参加。(文化・教養)</li> <li>・県立弥栄高校合唱部のミュージカル公演を鑑賞。</li> <li>・市民ギャラリー開催のワークショップに参加。(美術)</li> <li>・上溝地区は、平成23年度に上溝オリジナル吹奏楽曲「上溝～真夏の熱狂」を作曲し翌年度に初演した。</li> <li>・中央地区では「もみの木コンサート」を開催</li> <li>・公民館開催の芸術に関する事業に参加。</li> </ul> <p>(事業例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清新芸術鑑賞講座他(清新)、大野北サロンコンサート他(大野北)、光が丘文化展他(光が丘)、相模人形浄瑠璃他(小山)、蓄音機で聴く懐かしのコンサート他(上溝)、リフレッシュコンサート他(田名)、春のゆめコンサート(中央)、よこやま秋の芸術祭他(横山)、コンサート他(陽光台)、教養講座「歌舞伎」(星が丘)</li> <li>・青少年学習センターのワークショップ、ミニコンサート。</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>大学や高校、公民館や市民ギャラリー、青少年学習センターでは、音楽を始め、美術、芸能に関する事業や市民講座などが開催され、多くの区民が鑑賞し、芸術などに親しんでいることから、取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針5 文化の振興に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
国際交流によるまちづくり	<p>国際交流フェスティバルや学校、公民館などでの国際交流、国際理解に関する学習会、講演会等に積極的に参加したり、外国人と交流することなどで各国の文化や伝統を学び、国際理解を深めるとともに国際交流を進めます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>地域では、国際交流に関する講座やイベントが開催され区民が参加し、外国の文化などを学び、外国人と交流するきっかけづくりに取り組んでいる。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館で世界を知る講座「スリランカの紅茶を学ぶ」を実施（横山）</li> <li>・ 国際交流ラウンジが「さがみはら国際交流フェスティバル」を公民館で開催。（大野北）</li> <li>・ 青少年おもてなしカレッジ in 田名を開催（田名）</li> <li>・ 桜美林大学が、公民館などで外国の民族衣装を子供たちに着用してもらう事業を実施。</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人にどのようにアクセスしてよいか分からない。</li> <li>・ 国際交流に関して、小・中学校での取組を進める必要がある。</li> <li>・ 国際交流に関する事業は実施されているが、実際の交流は進んでいない。事業の実施後にどのようにして交流を深めていくかの検討が必要</li> <li>・ 日本のルールを伝えたり、伝えられる人材を養成するなどの取組が必要である。</li> </ul>
検証結果	<p>外国の文化を知る講座や外国人と交流するきっかけとなるイベントが開催され、区民が参加し国際理解を深めているが、地区が限定されており全地区で開催はされていないことや事業をきっかけに外国人との交流が進んでいない状況から、取組は順調に進んでいるとまでは言えない。</p>

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針6 人権尊重・男女共同参画を推進します

重点的な取組	区 民 の 取 組
「ありがとう」 でつながるま ちづくり	一人ひとりが自立し、責任を分かち合い、お互いを尊重し合える人権尊重のまちづくりに努めます。
各地区の事例 及び意見	<p>若い世代を中心に、家事を分担するなど、従来の固定的な性別による役割分担に対する意識は取り払われてきているが、周囲への発信等が行われていない。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男性のサークルで、料理教室が開催された（田名）</li><li>・親子料理教室が開催され、父親が子どもと参加（大野北）</li></ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・男子厨房に入らずといった従来の考え方はなくなっているように感じる。</li><li>・男女間での互いを認め合う考え方の世代間格差はなくなっているように感じる。</li><li>・自治会や団体の役員構成を見ると、男性の比率が多い。</li><li>・未だ女性の自立を阻むものはあるように感じる。</li></ul>
検証結果	男女共同参画や人権などについて、区民の理解は進んでいる。 また、男女共同参画については、日常生活の中でさらなる取組が必要である。

## まちづくりの目標2 (教育・文化分野)

### 基本方針6 人権尊重・男女共同参画を推進します

重点的な取組	区 民 の 取 組
男女がともに参画するまちづくり	<p>男女共同参画社会についての理解を深め、男女がともに認め合い、支えあう、元気な地域社会の実現に努めます。</p> <p>DV(ドメスティック・バイオレンス)の存在しない地域社会の実現に努めます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>特定非営利活動法人(NPO法人)では、女性活躍や男女共同参画社会を目指した事業の開催や意識啓発が行われている。また、DV被害者の保護に対する取組については、学校や市役所で行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人サーラでの、女性が社会で活躍できるためのセミナーなどの開催や相談事業、男女共同参画社会を目指した意識啓発事業の開催</li> <li>・学校では、児童が名札を着用しないなど、DV被害者の保護に対する取組を実施している。</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の社会進出の環境がまだ整っていない。</li> <li>・DVでは、様子がおかしいと思ったら、通報することを推奨することくらいで、思いつく区民の取組事例がない。</li> <li>・DV支援に関しては、被害者保護の観点から地域全体で保護に関する取組は出来ないが、被害を受けている人がいたら行政などへ通報することはできる。</li> <li>・DV防止に関しては、学校での教育、家庭での教育が必要。</li> <li>・男女共同やDVに関する出前講座をNPOなどの団体で行っているが、区民がどのように関わり取り組んでよいか分らず、区民の取組はあまり進んでいない。</li> </ul>
検証結果	<p>NPO法人のセミナーなどを通し、男女共同参画社会についての意識啓発の取組が進められている。また、若い世代は性別による考え方の垣根が取り払われているものの、地域団体の役員構成などを見ると、さらなる区民の取組が必要である。</p> <p>DVについて、区民一人ひとりが取り組むことは難しいが、学校や市役所などでの被害者保護に関する対策やDVに関する啓発は進んでいる。</p>



分科会



第4期 第6回区民会議

---

(3) まちづくりの目標3 (環境共生分野)

## 「まち、産業、自然と共生する中央区」

基本方針 7 環境にやさしいまちづくりを進めます

基本方針 8 緑地の保全・活用、水辺の保全・創出に取り組みます

基本方針 9 地域経済を支える産業を振興します

基本方針 10 地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します

### ア 進捗状況

- ・ 一般家庭の照明器具や防犯灯などのLED化、ハイブリッド車、電気自動車の普及が進んでいる。また、家庭ごみについては収集回数の変更を機に排出量が減少してきていることから、省エネルギーやごみの減量化が進んでいる。
- ・ 家庭ごみの出し方や資源分別のルールは広く浸透してきており、ルールも守られている。また、ごみの減量化、ごみを発生させない循環型スタイルにつながる買い物の際のマイバック持参や事業者によるレジ袋削減の取組も進んでおり、資源循環型の社会づくりを目指した取組は進んでいる。
- ・ 地域の社会教育施設で環境に関する講座等が開催されているが、意欲的な参加が見られないことや興味深い学習・体験の場が作られていないことから、環境を守るひとづくりはあまり進んでいない。
- ・ 緑地保全活動は限られた人が行っている状況であり、自然観察、自然の大切さを学ぶ機会に参加している人も限られていることから、区民への広がりはなく、緑地を守る・生かすまちづくりはあまり進んでいない。
- ・ アダプト制度による美化活動のほか、相模川では団体主催による清掃活動が長年実施され、地元の方の参加が定着しており、個人による清掃活動も行われている。また、相模川以外の河川でも自治会、大学などの団体が清掃活動を行っており、水辺を守る・親しむまちづくりは進んでいる。
- ・ 花植え活動などは商店街、子ども会、老人会などの様々な団体が行っており、また、個人宅でも節電や環境問題への関心などから、夏の時期にはグリーンカーテンなど身近にできるもので緑化が行われてきており、みどりの空間に配慮したまちづくりは進んでいる。
- ・ 団体の発足など魅力ある商店街づくりの支援、魅力ある事業者の創出・育成は進められている部分もある。商店街と地域が連携した祭りやまちの魅力づくりに事業者と区民が協力し取組んでいる。
- ・ 市民農園事業や保育園や小学校での農業体験、自治会の農業関連事業など、身近

なところで多くの方が土に親しみ、「農」への関わりが進んでいる。また、野菜の直売所の人気は高く、地産地消がなされていることから地域の農業への関心、理解に繋がっていると思われ、「農」とふれあうまちづくりの取組はよく進んでいる。

- ・ JAXAを活用したPRは区の魅力のアピールに繋がっている。また、「花いっぱい運動」など新たな魅力づくりが進められている点など、区としてのアイデンティティの高まりも見られ、ブランド力や魅力あるまちづくりの取組は進んでいる。
- ・ 市民桜まつり、上溝夏まつり、泳げ鯉のぼり相模川などの大規模な祭りやイベントは定着し、区を代表する資源となっている。また、新たな地域イベントが生まれるなど、今後の観光資源としての活用に向けた取組は進められつつある。

## イ 今後の課題

- ・ 資源循環型の社会づくりの取組について、一定の成果は出ているが、資源化など更に周知し取り組んで行く必要がある。また、各種団体により美化活動が実施されているが、参加者の高齢化という課題がある。
- ・ 環境を守るひとつづくりの取組は、学校と連携をとるなど、子どもへの学習の機会を設けることで、大人へと取組をつなげていく必要がある。
- ・ 自然観察ができる場所がどのような場所なのか、関心や理解を深め、愛着を持つための取組などにより、緑地を守る・生かすまちづくりを進める必要がある。
- ・ 水辺を守る親しむまちづくりには、相模川の鮎や道保川のホタルなどを地域資源としてPRする必要がある。
- ・ 観光のまちづくりを継続していくためには、祭り・イベントを継続する運営資金や担い手をどのように確保して行くか検討する必要がある。

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針7 環境にやさしいまちづくりを進めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>脱温暖化をめざしたまちづくり</p>	<p>日常の暮らしの中でこれまでのライフスタイルを見直し、エネルギーの消費量を減らしたり、自家用車の利用を控えて公共交通機関を利用する、ごみを減らす、みどりを守り育てるなど、一人ひとりができる身近な行動に取り組んでいくとともに、再生可能エネルギーを積極的に利用していくことにより、二酸化炭素の排出量を減らしていきます。</p> <p>企業などの事業者においては、自らの企業活動による地球温暖化への影響を把握し、製造・流通・販売・排気や移動などあらゆる過程においてエネルギー消費量の削減に努めるとともに、再生可能エネルギーを積極的に利用していくことにより、二酸化炭素の排出量を減らしていきます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>一般家庭などでも電力料金のメリットから照明器具のLED化が進んできている。</p> <p>また、企業でも環境保全を目的としたISOの認証取得の看板をよく見かけることから、環境配慮への取組が行われている。</p> <p>ごみの排出量についても、収集回数の変更を機に排出するごみが削減している。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会における防犯灯のLED化</li> <li>・自治会館でのLED化</li> <li>・自治会事業でのシゲンジャーによる、ごみ分別、環境問題に関する啓発活動（光が丘地区）</li> <li>・企業のISO認証取得</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからはLED化に加え、太陽光パネルの導入を進める必要がある。</li> <li>・自治会でも環境問題への取組を地域情報誌などに掲載するなどして啓発に努めたい。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>ハイブリッド車、電気自動車、電力の自由化などの経済性が向上したことなども影響し、脱温暖化への取組が着実に進められている。</p> <p>一般家庭、自治会での照明器具や防犯灯のLED化が進んでおり、脱温暖化への一人ひとりができる身近な取組は進んでいる。</p> <p>また、企業などの事業者においても、ISO認証取得、研修の実施、工事現場での作業の効率化など二酸化炭素の排出量の削減への取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針7 環境にやさしいまちづくりを進めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>資源循環型の社会づくり</p>	<p>資源分別の徹底やごみ出しルールを守ります。ごみを減らすため、詰め替え可能な商品を選択したり、過剰包装を避け、マイバッグを持参するなど生活のあらゆる場においてごみを発生させないよう、ライフスタイルを循環型のスタイルに転換します。</p> <p>地域の美化活動に積極的に参加、協力します。</p> <p>企業などの事業者においては、事業系ごみの減量化・資源化に取り組みます。事業活動の中で、ごみの排出者としてはもとより、区民が循環型の消費行動を選択できるようなビジネススタイルへの転換を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>生ごみや資源ごみの出し方、収集日は広く認知されてり、資源分別、ごみ出しルールは守られている。また、買い物の際のマイバック持参、事業者によるレジ袋を不要とした際のサービス及びレジ袋の有料化などごみを発生させない取組が進んできている。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物の際のマイバック持参の普及や家庭ごみの収集回数を減らしたことによるごみの減量化</li> <li>・ マイバック持参によるポイント付与サービス、レジ袋の有料化の事業者の増</li> <li>・ 自治会、商店街、企業、ホームタウンチームによる美化活動の実施</li> </ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源分別は進んでいるが、これからは生ごみの水切りに取り組むべきである。</li> <li>・ ごみの有料化をすることで、危機感をもって、ごみを減らす努力をするのではないか。</li> <li>・ 各種団体により美化活動が実施されているが、参加者の高齢化の問題がある。</li> <li>・ 資源循環型の社会をつくるには、詰め替え商品の普及など企業の取組も必要である。</li> <li>・ ごみの資源化やごみ出しのルールを守っていない事業者が散見される。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>資源分別やごみ出しのルールは広く浸透している。買い物時のマイバック持参の普及や事業者によるレジ袋削減への取組、家庭ごみの収集回数を減らしたことにより、ごみの減量化、ごみを発生させない循環型スタイルにつながり、取組は進んでいるが、資源化などへの取組を今後更に周知していく必要がある。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針7 環境にやさしいまちづくりを進めます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>環境を守るひとづくり</p>	<p>学校・職場・環境情報センター・社会教育施設などにおける学習や体験の機会に積極的に参加し、地球や地域で起きているさまざまな環境問題について理解や関心を深め、自分のできることから取り組みます。また、自分の持っている情報やスキルを多くの環境学習等の場で活用します。</p> <p>企業などの事業者においては、従業員を対象とした環境教育の実施に取り組み、環境保全を重視した事業活動をさらに進めるとともに、区民・団体・行政と連携し、環境教育・学習の場や機会・人材などを積極的に提供します。</p> <p>企業に提供されている情報を積極的に利用し、事業活動における環境配慮を進め、自らの取り組みなどについて積極的な情報発信に努めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>環境問題についての理解や関心を深める学習や、体験への参加はあまり良くない状況である。一方、企業などの事業者では、環境問題への取組を図っている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境情報センターや地区の社会教育施設での講座等の開催</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題に係る事業へは積極的な参加が少ない。</li> <li>・環境問題に関しては、遊びや工作などを取り入れた講座などで、子どもへの学習機会を設け、大人へと繋げていくとよい。</li> <li>・学校のカリキュラムに組み込まないと環境問題の学習は進まないの、学校とタイアップして体験学習などを実施した方がよい。</li> <li>・企業では、環境への配慮の取組を進めるISO認証取得など、環境問題への取組はイメージアップに繋がり、メリットとなるので進んでいる。また、ISO認証取得が環境問題への取組の情報発信となっている。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>環境問題に関する学習や体験の機会への意欲的な参加が見られないとともに興味深い学習・体験の場が作られていないことから、区民の取組としてあまり進んでいない。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針 8 緑地の保全・活用、水辺の保全・創出に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>緑地を守る・生かすまちづくり</p>	<p>横山丘陵緑地をはじめとする緑地の保全活動を行うとともに、自然の観察を通し、自然の大切さを学びます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>緑地保全活動は限られた人が行っている状況であり、また、緑地保全地区は交通のアクセスがよくないという実情がある。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道保川や道保川公園で緑地の保全活動や自然を観察する子どもを対象としたイベントを実施（光が丘地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地保全活動、自然観察や自然の大切さを学ぶ機会に参加しているのは限られた人である。</li> <li>・田名地区や道保川方面へは交通の便が悪いという課題はあるが、比較的訪れやすいという方法などをPRする必要がある。</li> <li>・自然観察ができる場所がどのような場所なのか、関心や理解を深め、愛着を持つための取組も必要である。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>緑地の保全活動や自然観察、自然の大切さを学ぶ機会に参加している人が限られていることから、広がりがなく、区民の取組はあまり進んでいない。</p>

### まちづくりの目標3 (環境共生分野)

基本方針 8 緑地の保全・活用、水辺の保全・創出に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>水辺を守る・親しむまちづくり</p>	<p>相模川、鳩川、道保川、八瀬川、姥川、境川など水辺環境の保全活動や河川の美化活動を行います。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>アダプト制度による美化活動のほか、自治会、大学、地元の方の個人での清掃活動も行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市から奨励金を受けて活動を行うアダプト制度による道保川公園での美化活動（光が丘地区）</li> <li>・地元の方による個人での相模川の清掃活動（田名地区）</li> <li>・桜美林大学の学生による境川での清掃活動</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模川で団体主催により実施されている「相模川クリーン作戦」は参加者が多い。また、田名地区では個人による清掃活動も行われており、相模川では取組が進んでいる。</li> <li>・桜美林大学が境川で活動を行っており、活動を行っている団体を拾い上げればかなりの数になるのではないかと。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>相模川では団体主催による清掃活動が長年実施され、地元の方の参加が定着しており、個人による清掃活動も行われている。また、相模川以外の河川でも自治会、大学などの団体が清掃活動を行っており、区民の取組はよく進んでいる。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針 8 緑地の保全・活用、水辺の保全・創出に取り組みます

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>みどりの空間に配慮したまちづくり</p>	<p>みどりの重要性を認識し、住宅の緑化や地域における花植え活動などに取り組み、身近な花やみどりを増やします。 建築物の屋上、壁面、駐車場、民有地等の緑化を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>花植え活動などは商店街、子ども会、老人会など様々な団体が行っている。また、節電や環境問題への関心などから、夏の時期には個人宅でグリーンカーテンが実施されるようになった。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街による花いっぱい活動（相模原駅前など）</li> <li>・子ども会による花植え活動（星が丘公民館など）</li> <li>・老人会による公園での花植え活動（光が丘地区公園など）</li> <li>・みどりの少年団とまち・みどり公社の連携による緑化推進活動</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街、子ども会、老人会などかなりの団体が身近なところで、花いっぱい運動や花植え活動をしている。</li> <li>・花いっぱい運動や花植え活動をしている団体を調べ、団体やその活動を紹介すると更に活動を広げられるのではないか。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>花植え活動については、多くの団体が身近なところで熱心に取り組んでいる。また、個人宅でもグリーンカーテンなど身近にできるもので緑化が行われてきており、区民の取組としてよく進んでいる。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針9 地域経済を支える産業を振興します

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
<p>良好な操業環境づくりと産業を支えるひとづくり</p>	<p>工業地域や準工業地域では地区計画や建築協定などを活用し、住宅の立地を制限することで良好な操業環境の確保を図るとともに、航空宇宙や環境など先端分野の企業の立地、雇用機会の創出・拡大を進めます。</p> <p>また、活力ある地域経済を実現するため、産業を支えるものづくり人材の育成と確保を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>事業者が主体で、一定の広さの区域を対象とする規模の事業であったり、また、雇用は事業者側が行うものであることから、区民の取組として実施するのは難しい。</p> <p>【取組事例】 具体的な取組は行われていない。</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画や建築協定は、土地活用に制限を加えることになるので、実施にはハードルが高く、活用することは難しいのではないか。</li> <li>・工業地域・準工業地域が住工混在地域になると思うが、最近は騒音・悪臭も段々と無くなってきており、良好な操業環境は確保されてきているのではないか。</li> <li>・移転した企業の跡地に新たな企業が進出してきても従業員の雇用が区民の採用に直接結び付くわけではない。</li> <li>・桑茶などの地場産業は販売場所が限られるが、周囲の応援を受け、事業に取り組んでいる。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>地区計画や建築協定等の活用による操業環境の確保や雇用機会の創出などにつながる具体的な取組は行われておらず、区民の取組は進んでいるとは言えない。</p> <p>本取組については、行政や企業の取組に負う部分が多く、区民としての具体的な取組目標とすることには課題がある。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針9 地域経済を支える産業を振興します

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
産業や企業を育むまちづくり	<p>国、県、関係機関と連携した支援策の展開、産学連携、企業間連携による研究開発支援などにより新たな成長産業の創出を進めます。</p> <p>また、さがみはら産業創造センター（S I C）、相模原商工会議所等と連携し、経営や技術等に関するコンサルティングや情報提供を行ったり、新事業分野の開拓に取り組む中小企業の製品をトライアル発注認定製品として認定し、P Rにより販路開拓を支援します。さらに、金融機関と協調して必要な資金の融資を行うなど、中小企業の育成・支援に取り組みます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>事業者が主体で、国、県、関係機関との連携事業や支援制度は自治体が発施することから、区民の取組として実施するのは難しい。</p> <p>【取組事例】 具体的な取組は行われていない。</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・相模原市は「さがみロボット産業特区」となっているが、国、県、関係機関と連携した支援策と言えるのではないか。</li><li>・さがみはら産業創造センター（S I C）は支援が充実しており、起業家たちが活動しやすい環境になっている。</li><li>・事業者が金融機関から借入れをする場合には、利子補給など市の補助制度があり、利用すれば負担が減るが、制度を利用した企業の育成に結び付いているのか検証することは難しい。</li></ul>
検証結果	<p>本取組については、行政や企業の取組に負う部分が多く、区民としての具体的な取組目標とすることには課題がある。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針9 地域経済を支える産業を振興します

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
<p>商業振興によるにぎわいづくり</p>	<p>中心市街地である相模原駅周辺地区の特性を生かしたまちづくりと連動して、商業・サービス業などの集積を図るとともに、にぎわいづくりを進め、市街地の魅力を向上させます。</p> <p>チャレンジショップ支援事業などによる空き店舗対策をはじめ、子育て世代や高齢者世帯への支援などに取り組む商店街・地域連携型事業などの施策を展開することで、利便性の高い魅力ある商店街づくりを支援するとともに、魅力ある商業者の創出・育成に取り組みます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>商店街の育成や自治会で地域振興を意図した団体が組織されている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の市への協力要請による事業の実施（ペインティングパフォーマンスグランプリ）</li> <li>・商店街の育成、自治会との連携を目的とした地域振興の団体の結成（光が丘地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原駅周辺の商店街は買い物客の大型店趣向が高まる中、個人店主の方が頑張っている。</li> <li>・事業者の方は、死活問題であり、それぞれの立場で一生懸命やっている。</li> <li>・商店街ではハード整備に加え、ソフト事業も展開し、イメージアップと魅力づくりの取組を行うが、行政との連携や行政からの支援がないと取組を行うことは難しく、行政へ相談、協力依頼をしている。</li> <li>・商店街の空き店舗で新たにお店を開こうとする人を支援する、チャレンジショップ支援事業は、新たな商業者創出・育成だけでなく、商店街の活性化、他の商業者への刺激にもなることから、今後も継続して実施していただきたい。</li> <li>・まちづくり協定でマンションの1階は事務所か商店とすることとなっている場合も、1階までマンションにてしまっている例もある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>団体の発足など魅力ある商店街づくりの支援、魅力ある商業者の創出・育成は進められている部分もある。商店街と地域が連携した祭りやまちの魅力づくりに事業者と区民が協力し取組まれている。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

### 基本方針9 地域経済を支える産業を振興します

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>「農」とふれあ うまちづくり</p>	<p>市民農園等を利用した野菜や草花の栽培などにより、余暇利用や土と親しみながらの健康づくりを進めるとともに農地の保全や農業に対する理解を深めます。</p>
<p>各地区の事例 及び意見</p>	<p>市民農園事業、保育園や小学校での農業体験、自治会の農業関連事業など、身近なところで農業に関する事業が実施されている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園の園児による、さつまいもの苗植えから収穫までの農業体験（上溝地区）</li> <li>・ 小学校の農園での児童の農業体験（清新地区）</li> <li>・ 地域での田植え体験事業の実施（星が丘地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民農園を多くの人が利用しており、特に高齢者の利用が多い。</li> <li>・ 市民農園を利用した畑仕事は健康増進に繋がるものであり、土に親しみながらの健康づくりへの取組はよく行われていると思われる。</li> <li>・ 自治会の事業などでも農業に関するものは参加者が多く、保護者も子どもに土いじりをさせたいという思いがあるのではないかと。</li> <li>・ 野菜の直売所は人気があり、地産地消が行われている。農業の大切さへの理解が深まるのではないかと。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>市民農園の利用、保育園や小学校での農業体験、自治会の農業関連事業への参加など身近なところで多くの人が土に親しみ、「農」への関わりが進んでいる。</p> <p>また、野菜の直売所の人気は高く、地産地消がなされていることから地域の農業への関心、理解に繋がっていると思われ、取組はよく進んでいる。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

基本方針10 地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
<p>ブランド力や魅力あるまちづくり</p>	<p>中央区の持つ魅力や地域資源（市役所さくら通り、市立博物館、JAXA相模原キャンパス、相模川や横山丘陵などの豊かな自然、多彩な祭り・イベント、特産品や飲食店等）を発掘・連携・強化し、中央区としてのアイデンティティを高め、さまざまなメディアやイベント等を通して発信することで、区の魅力を内外にアピールしていきます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>JAXAなどの地域資源を活用した区の魅力発信が行われるとともに、「花いっぱい運動」など新たな魅力づくりの取組などが進められた。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淵野辺駅ではJAXAにちなんで「銀河鉄道999」を駅の発車音として使用している。</li> <li>・淵野辺地区の商店街ではJAXAを活用し、JAXAにちなんだメニューを飲食店で提供したり、通りの名称も宇宙・銀河に関連する名称にしている。</li> <li>・大野北公民館では子どもたちを対象にJAXA職員を講師とした宇宙にちなんだ事業を実施している。</li> <li>・中央地区ではJAXAのある街を活かして「子どもと大人 共に学ぶ宇宙教室」を開催している。</li> <li>・商店街では「花いっぱい活動」やイルミネーション事業を実施している。（相模原駅前・さがみ夢大通り地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント大賞は地区のイベントの取組に結び付いていたことから、2回で終了してしまったが、続けたかった。</li> <li>・田名地区の鯉の水路をPRすることで魅力づくりができるのではないかと。水路の管理について、経費や担い手の点で課題がある。</li> <li>・相模川の鮎や道保川のホタルなどを地域資源としてPRする必要がある。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>JAXAを活用したPRは区の魅力のアピールに繋がっている。また、新たな魅力づくりが進められている点など、区としてのアイデンティティの高まりも認められることから、取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標3 (環境共生分野)

基本方針10 地域資源を生かし、魅力ある中央区を創出します

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
<p>見る・学ぶ・体験する観光のまちづくり</p>	<p>相模原市民桜まつり、上溝夏祭り、泳げ鯉のぼり相模川、相模原納涼花火大会などの祭り・イベントや、地域における伝統文化の保存や継承を行うとともに、桜並木や文化・スポーツ施設などとあわせ、貴重な地域資源のネットワーク化を推進し、観光への活用を図ります。</p> <p>名所旧跡や祭りなどを訪れる「見る」だけの観光から、地域との触れ合いや産業見学などを行う「見る」・「学ぶ」・「体験する」観光へ転換を図ることにより、地域の活性化につなげていきます。</p> <p>そのため、観光協会や商工団体をはじめ、地域のさまざまな団体・区民が連携する仕組みを構築していきます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>市民まつりや公民館まつりなど様々な祭りやイベントが定着している。また、イベントは各地域の様々な団体が連携して実施されている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館でのイルミネーション事業（清新地区、星が丘地区）</li> <li>・ ふるさとまつりの花火（清新地区）</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 祭り・イベントを継続していくことについては、運営資金や担い手に課題がある。</li> <li>・ イベント大賞や地域活性化事業交付金報告会は、地区のイベントに結びつくもので有益である。</li> <li>・ 花火大会など大きなイベントは大変な混み合いで区内の他の地域から行くことが難しいが、地域のイベントであれば参加することが容易である。</li> <li>・ 市から区、区から9つの地区へと小規模のイベントが増えてきており、このようなイベントが観光になり、小さな観光、身近な観光地となる。「見る」・「学ぶ」・「体験する」観光への転換になってきているのではないか。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>大規模な祭りやイベントは定着し、観光資源となっている。</p> <p>身近な地域でのイベントが多く実施されて定着しつつあり、更なる観光資源となる可能性もあることから、取組は着実に進んでいる。</p>

## (4) まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

### 「未来に夢が広がる中央区」

基本方針 1 1 拠点整備と相模総合補給廠の早期返還、小田急多摩線延伸を目指します

基本方針 1 2 地域を支える交通環境の充実を図ります

#### ア 進捗状況

- ・ 相模原駅周辺のまちづくりについて民間の視点から、相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会が市へ要望書を提出するなど、働きかけが行われている。
- ・ 相模総合補給廠の早期返還についての関係機関への働きかけにより、相模総合補給廠が一部返還され、跡地利用によるまちづくりが進んでいる。
- ・ 小田急多摩線延伸促進協議会による早期実現に向けた要望活動、PR活動が継続して行われている。また、小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会が、上溝地区で新たに設立されるなど、小田急多摩線の延伸を目指し地域で活発な活動が行われている。
- ・ 生活道路を自主的に点検し、危険箇所等の改善要望が行われるなど、道路環境の充実を図る取組が進んでいる。
- ・ 自動車の利便性の高さから、代替となる移動手段への転換は進んでいない。区内の交通不便地区である大野北地区の一部では、コミュニティバスが運行されており、地域における交通網整備は進んでいる。
- ・ 交通事業者に対する輸送力増強の要望活動を行ったことで、JR横浜線の新型車量の導入や、JR相模線の運転本数の増加につながった。また、JR相模線の複線化に向けた要望活動も行われるなど、利便性の高い公共交通網の充実に向けた取組は進んでいる。



#### 内視察研修

#### イ 今後の課題

- ・ 小田急多摩線延伸の早期実現に向けて、沿線地域以外も含めた区全体の機運の盛り上げが図られるような取組が必要である。
- ・ 高齢社会に向けて、地域の支えあい・助けあいによる高齢者の生活交通・移動手段の確保のための取組の検討が必要である。



## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

基本方針 1 1 拠点整備と相模総合補給廠の早期返還、小田急多摩線延伸をめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
相模原駅周辺地区の整備によるまちづくり	<p>民間活力を生かした積極的な事業への参加や、民間ならではの新たな発想による魅力的なまちづくりの提案を行っていきます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>相模原駅周辺のまちづくりについて民間の視点からの要望について関係機関への働きかけが行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会が、まちづくりの推進について市へ要望書を提出した。</li> <li>・小山地区の補給廠活用アンケートでは多くの区民が緑の広場を希望している。</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒久的な施設を建設する以前に、人が集まる魅力のある簡易的な施設を誘致するなど相模原駅に降りたくなる魅力を作らなければならないのではないか。</li> <li>・小山地区としては病院や福祉施設などが必要。</li> <li>・相模原駅を中心としたまちづくりに関する市の考え方が住民に情報として共有されていない。</li> <li>・相模原駅北口のハード面の整備だけでなく、南口の活性化を検討する必要がある。</li> </ul>
検証結果	<p>相模原駅周辺のまちづくりについて、相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会が市へ要望書を提出するなど、働きかけが行われている。</p>

## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

基本方針 1 1 拠点整備と相模総合補給廠の早期返還、小田急多摩線延伸をめざします

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
相模総合補給廠の早期返還と跡地利用によるまちづくり	<p>すべての区民と行政が一丸となって、相模総合補給廠の早期返還の実現を図るために、関係機関への働きかけを継続していきます。また、相模総合補給廠の一部返還予定地については、小田急多摩線の延伸を踏まえ、多様な都市機能の集積を図る首都圏南西部の広域交流拠点の形成をめざします。</p>
各地区の事例及び意見	<p>相模総合補給廠の早期返還の実現を図るための関係機関への働きかけが行われており、相模総合補給廠が一部返還された。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会が、まちづくりの推進について市へ要望書を提出した。</li> </ul> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相模原駅周辺のまちづくりに加え、上溝地区や田名地区も含めた区全体としての取組が必要である。</li> <li>一時的なイベントだけではなく、立ち寄りたくなる取組を日常的に数多く行う必要がある。</li> <li>相模原駅南口のまちづくりの考え方が不明確であり、住民に情報として共有されていない。</li> </ul>
検証結果	<p>相模総合補給廠の早期返還の実現に向けて、関係機関への働きかけが区民の取組として行われている。</p> <p>相模総合補給廠が一部返還されたことは区民の取組として評価できる。</p>

## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

基本方針 1 1 拠点整備と相模総合補給廠の早期返還、小田急多摩線延伸をめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
小田急多摩線延伸によるまちづくり	<p>小田急多摩線延伸促進協議会を中心に、延伸に向け区民に広く周知活動を行うとともに、関係機関への要望・要請を実施していきます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>小田急多摩線延伸を目指した様々な取組が行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小田急多摩線延伸促進協議会による要望活動が行われている。</li> <li>・小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会が平成29年4月に設立された。(上溝地区)</li> <li>・平成19年に設立された田名地区公共交通整備促進協議会では、小田急多摩線延伸について、行政への要望や署名、横断幕の設置などの活動が行われている。(田名地区)</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上溝、田名は小田急多摩線延伸促進の、のぼり旗などがあり、小田急延伸の促進活動に積極的な様子が見て取れるが、相模原駅ではPRが見られず、取組が見えにくい。</li> <li>・清新地区は相模原駅からのぼり旗などにより周知活動をしたいと考えている。</li> <li>・小田急が来るから商店街が盛んになるではなく、商店街を盛んにして誘致するのではないか。</li> </ul>
検証結果	<p>小田急多摩線延伸促進協議会による要望活動など、小田急多摩線延伸に向けた活動が地域ごとでは行われている。今後は他の地域とも連携して、取組をより活発にしていく必要がある。</p>

## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

### 基本方針 1 2 地域を支える交通環境の充実を図ります

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>地域における道路環境の充実によるまちづくり</p>	<p>多様な地域活動を支える道路網を整備するとともに、交差点改良や立体交差化などにより、安全で快適な道路環境をつくります。</p> <p>また、狭あい道路や通過交通が多い道路及び通学路などでは、拡幅整備などにより、安全性や利便性の確保に努めます。</p> <p>特に自転車利用環境の整備については、自転車道等の整備・拡充や自転車駐車場の充実、レンタサイクル等の推進、放置自転車の解消、サイクルアンドバスライドの普及・促進など、自転車利用者等の安全性、利便性の向上と自転車の利用促進を図るための環境づくりを進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>地域における道路環境の充実に向けた取組として、生活道路の改善要望が行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方や関係機関が参加する「ふれあい交流会」を実施して、地区内の生活道路を中心に点検を行っている。【光が丘地区】</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前の駐輪場のスペースが狭い</li> <li>・乗り捨て式のレンタサイクルを導入したらどうか。</li> <li>・市営相模原駅南口自転車駐車場でレンタサイクルが行われていることがあまり知られていない。</li> <li>・自転車専用道路を上溝や JAXA などへ、中央区は自転車で安全に移動できるような整備を進めるとよい。</li> <li>・「相模原市安全に安心して自転車を利用しようよ条例」が制定されたが、自転車事故に備えた保険の加入が義務化されたことは知っているが、子どもや高齢者などへのヘルメット着用については知られていない。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>生活道路を自主的に点検し、危険個所の改善要望が行われるなど、道路環境の充実を図る取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

### 基本方針 1 2 地域を支える交通環境の充実を図ります

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>地域を結ぶ公共交通網の整備によるまちづくり</p>	<p>自動車に過度に依存せず、公共交通や自転車の利用に努め、自動車の利用を減らします。</p> <p>また、区内に点在する交通不便地区において、高齢者など移動制約者の生活交通を確保するため、行政との協働により、バス路線網を補完するコミュニティバスなど地域にふさわしい交通の実現に向けた検討を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>自動車の利便性の高さから、自動車の利用は減ってはいない。区内の交通不便地区である大野北地区ではコミュニティバスが本格運行を行った。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野北地区ではコミュニティバスが平成 26 年 2 月 1 日から実証運行を開始し、平成 29 年 4 月から本格的に運行した。</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車免許返納と同時に、警察などとも協力して、自動車に代わる移動手段を考えていく必要がる。</li> <li>・自動車免許返納した際に、自動車に代わる移動、輸送手段がないと生活に不便である。</li> <li>・自転車利用促進の取組として、駅でのレンタサイクルを活用した、駅間の利用を促進する実証実験を行うとよいのではないか。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>現状では自動車に代わる移動手段への転換が進んでいない。</p> <p>交通不便地区である大野北地区では、コミュニティバスが本格運行され、取組は進んでいる。</p>

## まちづくりの目標4 (広域交流拠点分野)

### 基本方針 1 2 地域を支える交通環境の充実を図ります

重点的な取組	区 民 と 行 政 の 取 組
利便性の高い公共交通網の充実によるまちづくり	<p>鉄道路線の輸送力増強を図るため、JR横浜線の新型車両の導入や、JR相模線等の運行本数の増加などを働きかけます。</p> <p>また、区民と行政が一体となって、JR相模線複線化の実現に向けた働きかけを行っていきます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>交通環境の充実に向けて交通事業者に対する要望活動が行われている。</p> <p><b>【取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域と行政で組織した相模原市公共交通整備促進協議会による交通事業者に対する要望活動</li><li>・相模線沿線活性化協議会はJR相模線の複線化の実現に向けて、沿線地域の活性化を目的とした沿線ハイキング等の取組を実施している。</li></ul> <p><b>【意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・行政や自治会等で構成されている相模原市公共交通整備促進協議会が、公共交通の利便性向上に向けて交通事業者に対する要望活動を行っている。その成果として、平成26年にJR横浜線に幅広車体の新型車両が導入され、平成27年度にはJR相模線の夕通勤時間帯の運転本数が増加された。</li><li>・相模原市公共交通整備促進協議会や相模線複線化等促進期成同盟会（県や沿線市町・経済団体で構成）がJR相模線複線化の実現に向けた要望活動を行っている。</li></ul>
検証結果	<p>鉄道路線の輸送力増強を図るための働きかけとして要望活動を行い、その結果として、JR横浜線の新型車両の導入や、JR相模線の運転本数の増加といった成果を得ている。また、JR相模線の複線化に向けた要望活動が行われており、取組が進んでいる。</p>

## (5) まちづくりの目標5（自立分権分野）

### 「<sup>ひらく</sup>拓く、<sup>つく</sup>創る、区民参加の中央区」

基本方針13 すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします

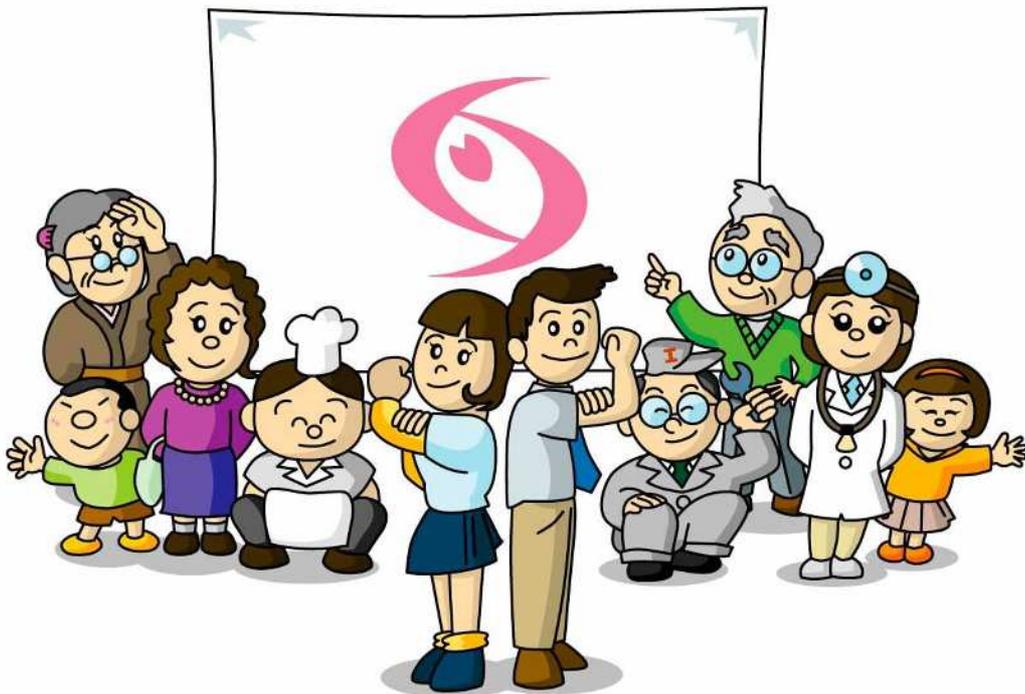
#### ア 進捗状況

- ・ まちづくり会議や地域の様々な団体が、地域の課題解決や活性化に向けた取組を行っているが、幅広い区民の参加が得られていない。
- ・ 各地区では、自治会への加入促進や退会防止に向け、自治会の活動や必要性などについて、地区連のホームページへの掲載のほか、新たにリーフレット等を作成し広くPRを行うなど、様々な取組が進んでいるが、防犯、防災、環境美化などの地域課題について、自治会未加入者と地域全体で話し合う機会を設けるなどの取組は進んでいない。
- ・ 各地区では、地域のイベントの運営に中高生が参加したり、大学生が商店街や地域の人とイベントを企画運営する取組が行われ、若い世代の力を生かすまちづくりが進んでいる。
- ・ 各地区で地域住民の交流を促進するイベントを開催しており、地域における連携が進められている。また、本庁6地区におけるまちづくりの拠点整備について、行政と検討を進めた結果として本庁地域まちづくりセンターが新設され、地域を創る人づくり、場づくりの取組は進んでいる。



## イ 今後の課題

- ・ 中央区民としての意識を高める取組によって、区民意識の醸成を図る必要がある。
- ・ 自治会加入促進の取組をより効果的に進める必要がある。
- ・ 地域の活動に若い世代に戦力として参加してもらうだけでなく、学生や子どもたちの知恵を汲み取る仕組み作りが必要である。
- ・ 現在行われている学生など若い世代と地域との連携の取組を他の地区へ広げていく必要がある。



## まちづくりの目標5 (自立分権分野)

基本方針 1 3 すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
すべての区民が主体的に参加するまちづくり	<p>安全で安心して暮らし続けられるまちづくりを実現するために、大学や企業を含めた地域に関係するあらゆる団体や個人がその特性を生かして連携・協力し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組みます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>地域課題の解決や地域の活性化に向けて、地域に関係する団体や個人が参加した取組が行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会のまちづくり点検による、地区内の道路点検の実施。(光が丘地区)</li> <li>・自転車事故対策推進委員会を作っている。(光が丘地区)</li> <li>・もみの木コンサートの開催。(中央地区)</li> <li>・まちづくり広報発行事業(横山地区)</li> <li>・「ペインティング・パフォーマンス」での団体・個人の特性を生かした事業運営(大野北地区)</li> <li>・「こども未来ワールド in 光が丘」への中・高校生の運営参画(光が丘地区)</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり会議が設置されていることは、地域で困っていることなど課題解決を話し合うことができている。</li> <li>・事業者が開催している盆踊り大会に、地域住民も招待され、参加している。</li> <li>・ふるさとまつりは、地域住民の交流の場として、地域活性化の役割を担っている。</li> <li>・光が丘地区では人材バンクがあり、資格を持っている人が登録しているが、公園の樹木選定などで動き出しており、今後は高齢者の散歩のおつきあいなど日常のお手伝いから始めようと思っている。</li> <li>・JAXA や特色ある高校など、中央区の文化を大切にしたいまちづくりがもっと出来るのではないか。</li> <li>・中央区民としての意識を持ってもらう取組として、様々な場面で区民デーを作るなどして区民意識の醸成を図る必要がある。</li> </ul>
検証結果	<p>地域の様々な団体で構成されるまちづくり会議が中心となって、地域の課題解決に向けた取組がなされている。</p>

## まちづくりの目標5 (自立分権分野)

基本方針 1 3 すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
自治会加入促進による地域づくり	<p>若い世代の加入促進や高齢者の負担軽減などに取り組みます。自治会活動や、加入の必要性などを分かりやすく伝えるなど、効果的なPRを行うとともに、ホームページなどで自治会活動を広くアピールします。地域での共通課題である防犯、防災、環境美化や福祉などについて地域全体で考える機会を設け、未加入者とのコミュニケーションを深めます。地域人材の発掘や「リーダー」の育成を進めます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>自治会加入の促進、退会防止のための取組は各地区で行われている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の自治会退会防止のため、「孤独は万病のもと」というチラシを作って配布した。(光が丘地区)</li> <li>・自治会加入促進のリーフレットを作成し配布した。(光が丘地区)</li> <li>・ふれあいセンターで、火曜と木曜日に高齢者のためのコミュニティとして、にぎわいどころを開催している。(光が丘地区)</li> <li>・人材ネットを作り、ふれあいセンターなどの事業に指導員などとして参加している。</li> <li>・一部の自治会では、自治会長が各戸を訪問し、役員免除制度の案内をしながら加入の呼び掛けを行っている。</li> <li>・自治会加入のメリットを感じるのは子どもを持ってからであり、そのための加入促進をしている。</li> <li>・自治会館でのイベントを定期的(週1~2回程度)に開催し、自治会未加入者も積極的に受け入れることで、地域活動への関心をもってもらうきっかけづくりとしている。</li> <li>・ふるさとまつりの開催時に、自治会未加入者を対象に案内状を送付し、地域交流へのきっかけづくりとしている。</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政からの依頼案件が膨大であり、それが自治会員の負担となっているため、行政からの依頼案件を精査する必要がある。</li> <li>・若い世代にも自治会活動に興味を持ってもらえるようホームページを作成している。</li> <li>・他自治体では、区が地域大学を設立、運営し、卒業生を名簿登録し、地域の要望に応じて派遣する制度を取り入れており、あじさい大学で活用できるのではないかと。</li> </ul>
検証結果	<p>各地区では自治会への加入促進や退会の防止に向けた取組が行われている。また自治会に未加入の住民に地域活動への関心をもってもらうきっかけづくりの取組も行われている。今後は更に、効果的な加入促進を進める必要がある。</p>

## まちづくりの目標5 (自立分権分野)

基本方針 13 すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
学生などの若い世代の力を生かすまちづくり	<p>学生などの若い世代と地域、地元商店街などが連携し、地域課題の解決や地域の活性化に向けた活動に積極的に取り組みます。</p>
各地区の事例及び意見	<p>各地区で地域課題の解決等に向けた、若い世代の力を生かした区民の取組がなされている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふちのべ大学（青山学院大学・麻布大学・桜美林大学の3大学有志）が商店街や地域の人たちとともに、銀河まつりなどの地域イベントを企画運営している。（大野北地区）</li> <li>・ボランティア絆青年部では、地域で育った若い世代が地域事業や防災訓練などに参加している。（横山地区）</li> <li>・「こども未来ワールド in 光が丘」での中・高校生の運営参加（光が丘地区）</li> <li>・相模女子大の学生が子ども食堂で、スタッフとして参加している。（星が丘地区）</li> <li>・保育園等で、地域の高校生（上溝高校）の職業体験や、保育士の教育実習の受け入れを行っており、それをきっかけに保育園等でのボランティアに継続して参加している学生もいる。（上溝地区）</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区では若い世代と連携した取組を行っている。他地域へ情報発信することで地区間が連携した取組にしていく可能性がある。</li> <li>・地域の若い世代に戦力として参加してもらうだけでなく、学生や子どもたちの知恵を汲み取る仕組づくりが必要である。</li> <li>・光が丘地区での「こども未来ワールド in 光が丘」は今年2年目になるが、参加した中・高校生が担う役割が増えている。</li> <li>・区内の大学との連携を大野北地区だけでなく、他の地区へ広げていく必要がある。</li> <li>・さくら咲くボーイズやセーフティリーダー等若い世代が中央区をPRしているが、そういった人々を育てて将来的に中央区のシティーセールスサポーターとして活用することはできないか。</li> </ul>
検証結果	<p>各地区では地域課題の解決等に向けて、若い世代と連携した区民の取組が進んでいる。</p>

## まちづくりの目標5 (自立分権分野)

基本方針 1 3 すべての区民が主体的に参加するまちづくりをめざします

重点的な取組	区 民 の 取 組
<p>地域を創るひとづくり・場づくり</p>	<p>地域における連携を進めるため、個人、団体問わず、情報交換や交流に努めます。</p> <p>また、まちづくりセンターが設置されていない区内のいわゆる本庁6地区におけるまちづくりの拠点整備について、行政とともに検討を進めます。</p>
<p>各地区の事例及び意見</p>	<p>各地区では地域住民との交流イベントとしてふるさとまつりなどが開催されているほか、交流する場を新たにつくる事業が進められている。</p> <p>【取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小山地区では光が丘地区と相互にイベント交流などを行っている。(小山地区)</li> <li>・居場所づくり事業として、自治会館に図書室を作った。(星が丘地区)</li> <li>・各地区でふるさとまつりなどを開催し、住民の交流を促進している。</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目安箱などを設置し、更に地域住民の意見を汲み取ってはどうか。</li> <li>・地域の要望により本庁地域まちづくりセンターができた経過があり、改めて拠点整備は不要と考える。</li> <li>・公民館で地域活力推進員と連携をとっており、用事があれば本庁地域まちづくりセンターに行き、担当職員がいて話ができるため、不便を感じない。</li> </ul>
<p>検証結果</p>	<p>各地区において地域住民の交流を促進するためのイベントを開催しており、地域における連携は進んでいる。</p> <p>また、平成26年4月に本庁6地区を担当する組織として本庁地域まちづくりセンターが新設されたことから、取組は進められた。</p>

## 5 相模原市中央区区民会議 委員名簿

(敬称略)

選出母体	所属 選出母体等	氏 名	備 考
まちづくり会議	小山地区まちづくり会議	石井 今朝太	副会長 (第4回)
		永富 多美子	第4回～
	清新地区まちづくり会議	田代 明寛	
	横山地区まちづくり会議	末永 暁子	
	中央地区まちづくり会議	牛尾 良一	
	星が丘地区まちづくり会議	竹田 幹夫	副会長 (第5回～)
	光が丘地区まちづくり会議	平 林 清	第1回～第3回
		割 柏 秀規	第4回～
	大野北地区まちづくり会議	河 本 博	
	田名地区まちづくり会議	関 戸 丈夫	第1回～第3回
志 村 勝美		第4回～	
上溝地区まちづくり会議	小 林 充明		
公益的活動団体	相模原市自治会連合会	田 所 昌訓	副会長 (第1回～第3回)
	公益社団法人相模原青年会議所	宇 田 川 隼	
	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会	坂 本 洋三	
	相模原市民生委員・児童委員協議会	中 西 豊和	第1回～第2回
		永 野 堅次	第3回～
	一般社団法人相模原市医師会	木 内 哲也	
	相模原市私立保育園園長会	清 水 洋子	
	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	島 根 裕志	
	相模原交通安全協会	井 上 政市	
	相模原市公民館連絡協議会	小 倉 偉男	
	一般社団法人相模原市観光協会	浦 上 裕史	
相模原商工会議所	横 山 房男		
特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	石 井 トシ子		
学識経験者	和泉短期大学	井 狩 芳子	会 長
区内の住民	公募委員	上 杉 愛海	
	公募委員	齋 藤 春美	
	公募委員	本 郷 永子	

## 6 第4期区民会議開催状況

回次	開催月日	出席者数	傍聴者数	主な内容
1	平成28年 9月14日	24人	0人	【全体会】 ・会長、副会長の選出について ・中央区区ビジョンについて ・第4期中央区区民会議について ・第1期から第3期までの取組と今後の予定について
2	平成28年 12月6日	24人	0人	【全体会】 ・中央区区ビジョンの取組状況について ・中央区役所主要事業の取組状況について ・中央区の現状と課題について ・今後の中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクト実行委員会の取組について
3	平成29年 2月14日	24人	0人	【全体会】 ・区内視察 ・中央区安全・安心と夢・希望のプロジェクトについて
4	平成29年 10月3日	23人	1人	【全体会】 ・区ビジョンの取組状況について
-	平成29年 10月31日	5人	0人	【分科会 環境共生分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 11月1日	6人	0人	【分科会 広域交流拠点分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 11月6日	5人	0人	【分科会 安心・福祉分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 11月8日	5人	0人	【分科会 教育・文化分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 11月24日	4人	0人	【分科会 環境共生分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 12月7日	5人	0人	【分科会 広域交流拠点分野】 ・区民の取組の検証
-		4人	0人	【分科会 環境共生分野】 ・区民の取組の検証
-	平成29年 12月12日	5人	0人	【分科会 安心・福祉分野】 ・区民の取組の検証
-	平成30年 1月12日	5人	0人	【分科会 安心・福祉分野】 ・区民の取組の検証
-	平成30年 1月15日	6人	0人	【分科会 教育・文化分野】 ・区民の取組の検証
5	平成30年 6月4日	20人	2人	【全体会】 ・区ビジョンの「区民の取組」の振り返りについて ・「中央区みらい協働プロジェクト」について
6	平成30年 7月23日	18人	1人	【全体会】 ・第4期区民会議活動報告（案）について

# 参考資料

( 中央区区ビジョン進行管理表【平成 25 年度～平成 27 年度】 )

第4期  
相模原市中央区区民会議 活動報告

～ 区ビジョンの区民の取組に対する検証結果 ～

発行 平成30年7月  
相模原市中央区区民会議  
編集 相模原市中央区役所 区政策課  
相模原市中央区中央2-11-15  
電話 042-769-9802

